

# また声は今も

## 自ら「政策」、チラシに

### 市民グループ



政策が書かれたチラシを配る「チェンジ国政！板橋の会」のメンバーら＝15日、東京都板橋区

15日午前、東京・板橋の東武東上線成増駅前。「政党がつくった政策と見比べてみて下さい」と言いながらビラを配る人たちがいた。市民グループ「チェンジ国政！板橋の会」のメンバーだ。事務局長の岡本達思さん(67)は「この中には、私たちが1年かけて練り上げた考え、思いが詰まっている」と話す。

2年前、地元の「九条の会」や反原発を訴えるグループらと協力し、国会前で安保法に反対した。採決強行の後、もっと広く市民を巻き込もうと昨年11月、「板橋の会」を結成した。特徴は独自につくった「政策」だ。中心メンバーが七つの「たたき台」をつくり、集会でメンバーに示

した。最初に挙げたのが「憲法に明記される平和主義、民主主義をつらぬく国をめざす」。安保法や「共謀罪」法の廃止も加えた。

野党共闘に期待し、各党の地元事務所などに持ち込み、共有できる文言にすりあわせた。1年かけて完成させた翌日、衆院は解散。だが、地元の選挙区からは自民のほか希望、共産、立憲民主の候補者が乱立し、共闘は実現しなかった。

成果を無駄にしたい。選挙中にチラシを配り、考える材料にしてもらうことにした。15日は雨の中、1時間で300枚ほど手にとってもらえた。当初は80人くらいだったメンバーは260人ほどに。共同代表の荒川孝治さん(68)は「自分たちの声を自分たちのやり方で国政に反映させる。そんな努力を選挙後も続けたい」。(清水大輔)

政治家  
まで選挙権  
時代が変わ  
政治家はもう  
人に合ったま  
いと思いま  
・原田朱美)  
ンサーに聞く